

< 幼児教育 >

豊かな感性を育てるための援助の工夫
～パネルシアター・絵本の読み聞かせを通して～

宜野湾市立志真志幼稚園教諭 島袋 純子
宜野湾市立大山幼稚園教諭 棚原 利枝子

目次

I	テーマ設定理由	1
II	研究目標	2
III	研究仮説	2
IV	研究の構想図	3
V	研究内容	4
1	豊かな感性とは	4
2	表現とは	4
(1)	幼児の表現の特徴	4
(2)	表現する楽しさ	5
(3)	表現の受容の大切さ	6
3	幼児理解	6
(1)	幼児期の発達の特徴	6
(2)	幼児の行動の特徴	6
4	援助について	7
(1)	教師の援助とは	7
(2)	援助者としての教師	7
5	教材・教具の工夫	8
(1)	パネルシアターで表現する楽しさ	8
(2)	絵本の読み聞かせによる感性の育ち	9
(3)	書画カメラを通しての共有と表現	10
6	年間計画（教材の工夫と活用）	11
7	幼児の家庭における実態調査	17
VI	実践研究	22
1	保育実践	22
(1)	保育指導案 パネルシアターで遊ぼう	22
(2)	事例1 ねずみのかいすいよく	29
(3)	事例2 はらぺこあおむし	34
	ぼくのはな さいたけど…	
VII	研究の成果と今後の課題	39
1	成果	39
2	今後の課題	39
3	終わりに	40
	< 主な引用文献・参考文献 >	40

豊かな感性を育てるための援助の工夫

～パネルシアター・絵本の読み聞かせを通して～

宜野湾市立志真志幼稚園 島袋純子

宜野湾市立大山幼稚園 棚原利枝子

I テーマ設定理由

近年、子ども達を取り巻く社会情勢には目を見張ることが多く、経済や科学技術の発展と、情報化の進展により、社会環境も大きく変わってきたように思われる。又、核家族や少子化傾向により、人間関係の希薄化が社会問題になり、テレビ、ラジオ、新聞などを見ても心を痛める記事が増えてきた。このように、幼児を取りまく環境には厳しいものがある。

ところで、幼稚園においても、幼児の姿に接していると、いろいろなことに対して興味関心のあることを見つけ積極的にかかわろうとする子もみられるが、反面、自分の考えだけを通そうとし、遊具の譲り合いができない子、同年齢の子とのかかわり方がわからず大人とのかかわりを好む子や、自分の思いを表現できない子などが見られる。

幼児期は、心身の発達が著しく環境からの影響を受け、育っていく時期である。人間にとってより大切な幼児期に、幼稚園生活はもっとも重要とされている。

幼稚園教育要領解説書の中では「幼児は毎日の生活の中で、身近な周囲の環境とかかわりながら、そこに、限りない不思議さや面白さなどを見つけ、美しさや優しさを感じ、心を動かしている。そのような体験の様子や心の動きを自分の声や体の動き、あるいは素材となるものなどを仲立ちにして表現する。幼児は、これらを通して、感じることで、考えること、イメージを広げることなどの経験を重ね、感性と表現する力を豊かにしていく」と記されている。

幼児は、遊びを見つけ出し元気に遊べる子もいるが、中には何をしてよいかわからない子もいる。そのような遊べない幼児には、遊びの楽しさを知らせみんなと遊べるように援助していかなければならない。また、積極的に遊べる幼児には、さらに新たな挑戦や遊びを發展できるような刺激を与え、自己を表現できるようにすることが大切である。

感性を育てる手だてがいろいろある中で、パネルシアター・絵本の読み聞かせを通して幼児が自己を表現しようとする意欲につなげていきたい。そして、自分の存在を実感し、充実感を得て、安定した気分で生活を楽しむことができるような幼児を育成する。

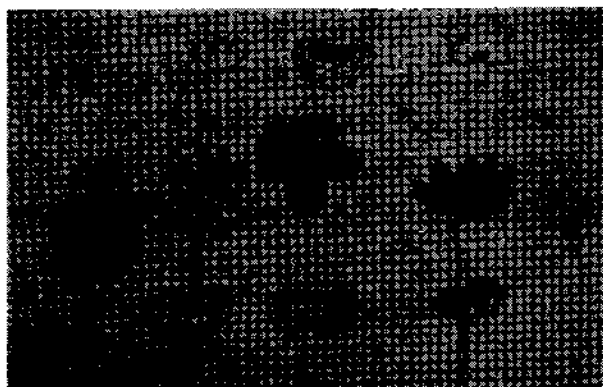
このようなことから、幼児が友だちとの感動体験を共有し表現することを楽しめるような援助の工夫をすることによって豊かな感性が育つのではないだろうかと考え、本テーマを設定した。

II 研究の目標

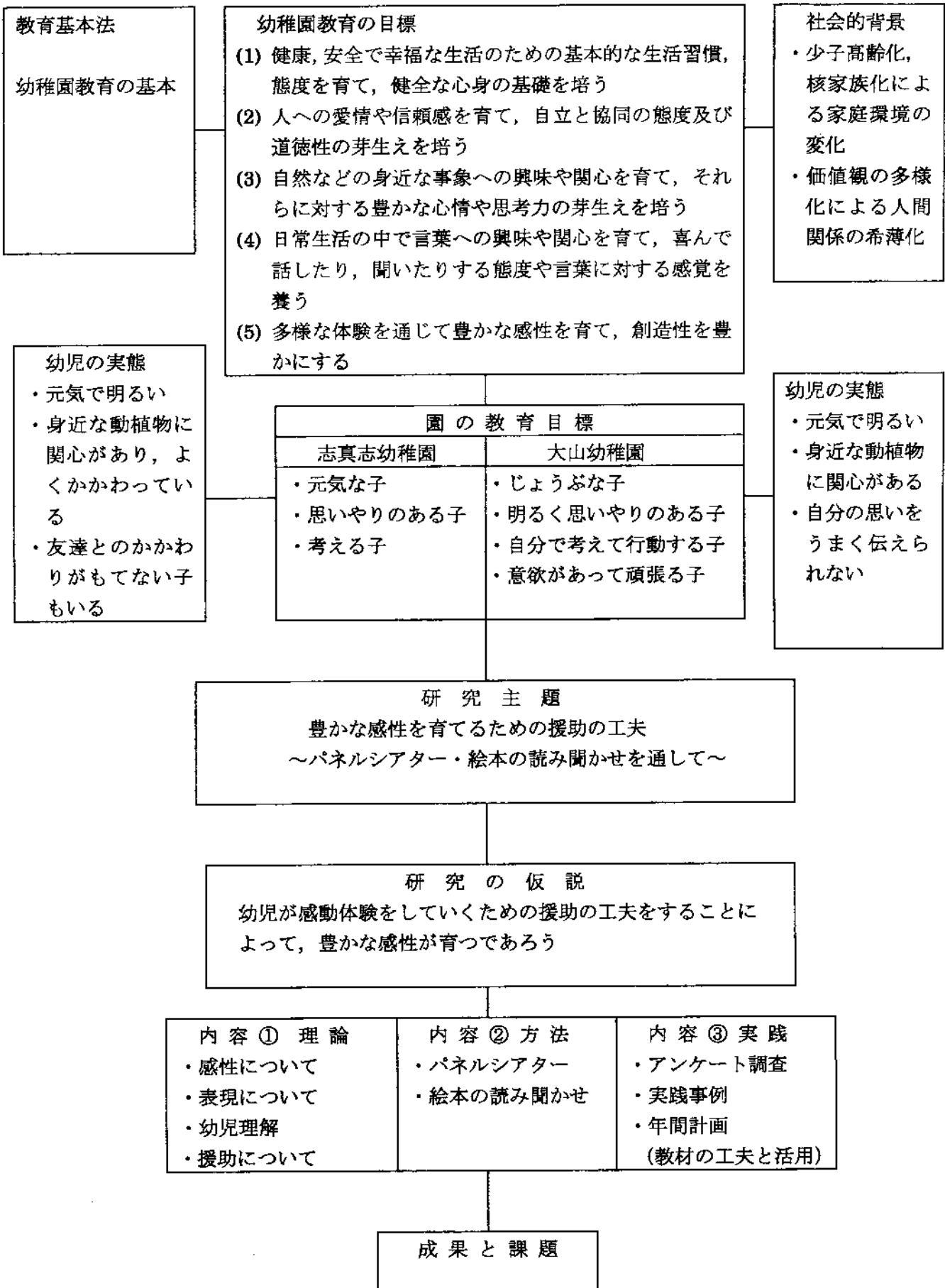
幼児の豊かな感性を育てるための理論研究や自己表現ができるような援助のあり方を研究する。

III 研究仮説

幼児が感動体験をしていくための援助の工夫をすることによって、豊かな感性が育つであろう。



IV 研究の構想図



V 研究内容

1 豊かな感性とは

感性とは、ものごとにふれて起こる心の傾向と能力を表わすこと。

豊かな感性は、幼児期に様々な事象に含まれる美しさなどに心を動かされ、そうした感動を自分なりに表現することを楽しむことによって育てられる。園生活の中で様々な動植物や音や形、手触りや動きなどに触れ、それらを素朴に受け止めながら見たり聞いたり、組み合わせたり感触を味わったりすることが幼児の感性が豊かになっていくために大切なことである。幼児が園生活の中で得た感動体験は周囲の人々から受け止められることにより、自分の中でもイメージして蓄積されていくのである。したがって周囲に起こる様々な事象のどこに教師が心を留めるか、何に価値を見いだすかによって幼児の感性やイメージは大きく影響されていくことになる。

豊かな感性や自己を表現する意欲は、幼児期に自然や人々など身近な環境とかかわる中で、自分の感情や体験を自分なりに表現する充実感を味わうことによって育てられる。

2 表現とは

自分の内面にあるイメージの世界をなんらかの感動を伴ってことば、動き、音、形、などの具体的な手段で外部に出すことが表現である。

表現は、子ども達の毎日の生活を豊かにする文化であり、周囲の大人や友だちとのつながりをつくる営みである。そして、同時に、感じ考える心の働きを育て、自分自身の内面を豊かにする営みである。幼児の表現の特徴について考えていくことにする。

(1) 幼児の表現の特徴

①素直に表現する

大人のように他人の目を気にしたり、はずかしがることが少ない。低年齢の子ども程その傾向が強く、心の動き、気持ちの高まりをストレートに表す。

②感情表現（情緒的表現）と文化的表現活動が混然としている。

子どもの感情表現には、快い表し、即ち、喜ぶ、笑う、やさしくする、安心するなどがあり、不快の表しには、泣く、怒る、嫉妬する、こわがるなどがある。これらの感情表現も子どもは素直に表し、思いや考えを伝えたり、保護を求めたり、共に楽しんだりして生活を豊かにしている。

人が社会と言う集団の中で互いに表現しあうことで生活している。「快」の感情表現と子どもの文化としての「表現活動」の結びつきは、はっきりと分けることが難しい。気分がよいと自然に歌がでる、嬉しいと友だち同士で抱きあい、手を繋ぎあって踊り出す。不快の時は、この様な姿は見られない。心が閉ざされ、頭の中のイメージも消えるか、次々と変わることがなくなってしまう。この「快い状態」にあることは重要なことである。

③幼児の表現は、子どもの感受性と、イメージの豊かさにある。

幼児は常に周囲のものに、強い好奇心というアンテナをはりめぐらしてキャッチし、それを内部に無意識のうちにため込んでいる。大人が子どものために整えたものだけに興味を持つのではなく、次第に自分で「何をどう感じるか」と言う感性を育てつつ、更に好奇心を持って、試したり、考えたりしながら、創造的行

動をとるようになっていく。

それが人に対しては、新しい人間関係を作ることになり、物であれば、他のものにみたり、工夫したりしながら、新しい物を作り出したり、遊びに使ったりする。遊び自体やそのルールを考え出すのも、創造的行為とみることができる。

子どもが試し工夫する姿は、日常の遊びの中によくみられる。これが子どもの表現を、時には大人の考えを越えるものにするのである。

④幼児の表現法の中心は、体、特に全身を動かすことにある。

歌う、絵を描く、ねんどでつくる、劇あそびでことばを言う、楽器などで音をならす、どれも全身が動いている。それ程、心の動きと体の動きが結びついている。

⑤幼児の表現活動は、未分化であり総合的である。

子どもの表現活動を考えたり、見たりする時、大人は既に文化として存在している芸術、芸能を頭に描いているが、子どもはそういったことを知らない。逆に自由な表現が生み出せることでもある。未分化ということは自由、個性的表現といえる。

⑥幼児の表現方法は模倣からはじまる。

子どもの表現は自由であるが、最も身近な人のまねをすることからと言える。

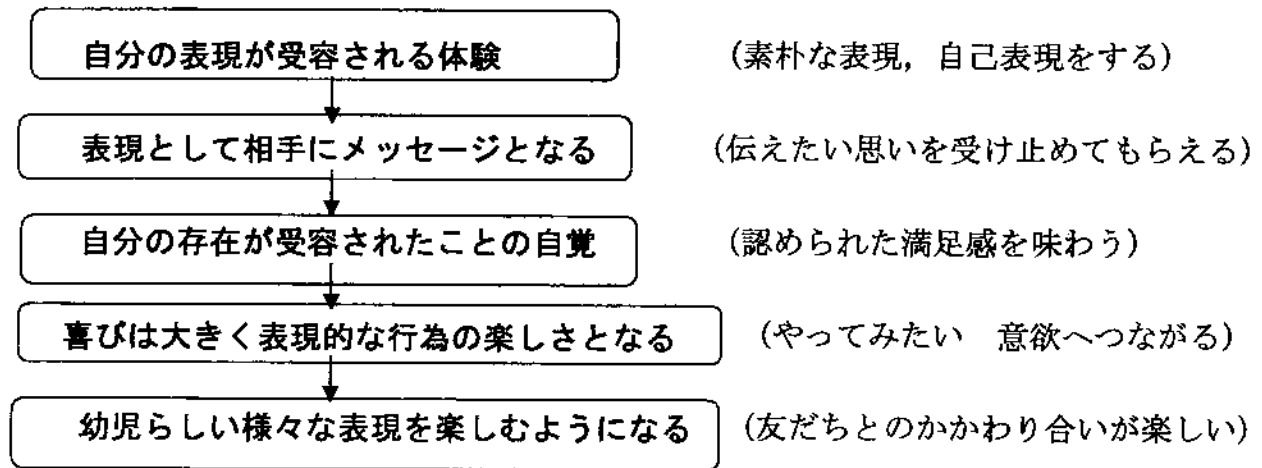
子どもは自分の好きな人、興味あるもののまねをするのも特長である。ここでも快い感情との結びつきが感じられる。幼稚園での教師の存在が子どもにとって「真似したい人」として存在しているかどうか考えてみることも大切である。

(2) 表現する楽しさ

- ①幼児にとって身の回りの物が好奇心の対象として興味を引く素材となり、それらのもに働きかけることを楽しむ（虫・花・木切れ・手触り等）
- ②自分の体そのものを素材にして、それを動かす心地よさを楽しむ（リズム・描く・作る等）
- ③自分のイメージや気持ちを表し夢や憧れの具現化を楽しむ（ごっこあそび・演じてみる）
- ④自分らしい表現的な活動を楽しむ（いろいろな遊びへ）
- ⑤自分らしい表現活動を周囲の大人や友だちに受け止めてもらえる楽しさ（友だちとの共有）



(3) 表現の受容の大切さ



3 幼児理解

幼児を理解するとは幼児と生活を共にしながら、何に興味があり、何を実現しようとしているのか、遊びの様子とともに幼児の気持ちを感じとっていくことである。

(1) 幼児期の発達の特徴

- ① 身体や運動機能が急速に発達する時期であり、身体を動かすことを喜ぶ。また、好奇心にあふれた時期でもあるので、次々にさまざまなことに興味を持って、全身で取り組むといった活動性の高まりが見られる時期である。
- ② 周囲の大人に認められ、受け入れられているという安定感に支えられて、自己を発揮し自立へ向かう時期である。教師との信頼関係を十分に築くことが、大切な時期ともいえる。
- ③ 自分自身の生活経験を手がかりにして、さまざまなイメージを形成し、それによって物事を受けとめ、理解したり考えたりする時期である。また、違ったイメージを持った友達同士がいっしょに遊ぶ中で、徐々に他の幼児との受けとめ方の違いに気づいたり、葛藤や挫折を体験したり、共通の部分で共感したりすることが大切な時期でもある。
- ④ 信頼や憧れを持っている人などの言動や態度を模倣したり、自分の生活に取り入れられることが多い時期である。このような同一化は、幼児の人格的な発達や習慣の形成などに大きな影響を持つものである。教師の日頃の言動は、モデルとなって幼児にそのまま取り込まれていく。

(2) 幼児の行動の特徴

- ① 友だちと目的を持って相談したり役割を分担したりして、活動を進めることを楽しむ。
- ② 生活の中である程度の見通しが持てるようになる。
- ③ いろいろなことに興味を持って、試したり工夫したりすることが盛んになる。
- ④ ルールのある遊びに参加して、身体を力いっぱい動かすことを楽しむ。

4 援助について

(1) 教師の援助とは

- ① 幼児の素朴な表現を大切にし、幼児が何に心を動かし、何を表わそうとしているかを受け止め、表現できる喜びを味わわせるようにする。
- ② 感動体験が幼児の中にイメージとして蓄えられ、表現されるためには、教師や友だちと感動を共有し、伝えられるようにする。
- ③ 教師が幼児の感じている心の動きを受け止め理解することが大切である。教師自身も豊かな発想をもって応じることが大切である。
- ④ 幼児が思いを表現できず葛藤したり不安げな時は、内面がだせるような援助の工夫をしていく。
- ⑤ 幼児の日々の遊びを見つめ表現活動が、楽しめるような場や教材の精選をする。
- ⑥ 幼児の表現を見守り、自分達で進めていく姿を大切に受け止め、見通しをもってかかわる。

「仲間として、援助者としてともに育つ」幼児一人一人との信頼関係をつくり自らが感性豊かな人間になることを意識した生活の在り方が大切である

「豊かな感性を育てる」ということは、子ども達にかかわる大人が、健やかに子ども達が育ってほしいと願い、そのために子ども自身が楽しく遊べ、豊かな生活を送れるような環境づくりと教師の援助が大切である

(2) 援助者としての教師

援助者とは、幼児が自らの意欲や興味関心に基づいて活動を展開、発展させ、その中で自ら気づき、考え、必要な事柄を身につけていくような姿を引き出すことのできる教師である。

- ① 幼児をよく理解し、共感して、幼児に安心感、信頼感を与え、幼児の心のよりどころとなるように努力する。
- ② 幼児の発達を正しくとらえ、その時の課題が達成できるような適切な環境が構成できるようにする。
- ③ 楽しさと意欲がわき出るような雰囲気を作る。
- ④ 幼児に、その時々幼児なりの活動の目標を意識させる。
- ⑤ 幼児の要求や問いかけをしっかりと受け止めるようにする。
- ⑥ いきなり教えるのではなく、問いかけ、助言、ヒントなどによって幼児自身が気づき、考え、解決するように導く。
- ⑦ 幼児の活動の中に成長のチャンスをとらえて、それを生かすようにする。

5 教材・教具の工夫

(1) パネルシアターで表現する楽しさ

①よくわかる簡単な技法で誰でも手軽に楽しめる。

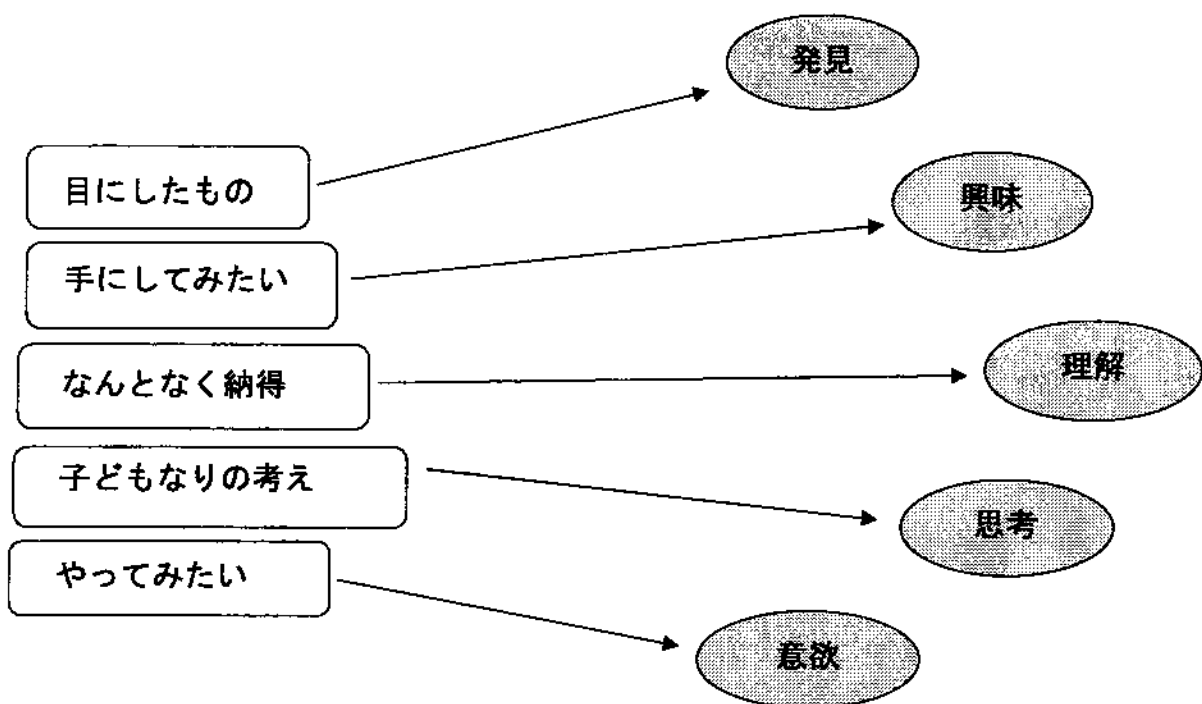
初めてパネルシアターに接した子ども達は絵人形がパネルに付着することが何よりも驚きである。シールでもなく磁石でもなく紙でもなくパネルのふわふわした面を貼るとくっついていく。目にして驚いたのは子どもにとっては発見であり、手にしてみたいと思ったのは興味をもったから、いろいろ試してみるのは、直接的な経験をしている。なんとなく納得するのは子どもなりに理解したからである。いろいろ確かめ興味が深まって関心をもったからである。子どもなりに思考して科学的な見方もしたり、自分もやってみたい作ってみたいという意欲にもつながっていく。子ども達にパネルシアターの技法そのものに興味をもってもらうことからスタートすることが大切である。新しい素材や技法にふれて、パネルシアターそのものが大好きになる。

②教師が子どもと一緒に作りあげていく楽しみがある。

パネルシアターは、教師がパネルの横や中央に立って、子ども達と対面して演じられる。子ども達の反応がとてもよくわかる。一人一人の表情をよく見て、子どもの発言やつぶやきを聞いてあげるようにする。

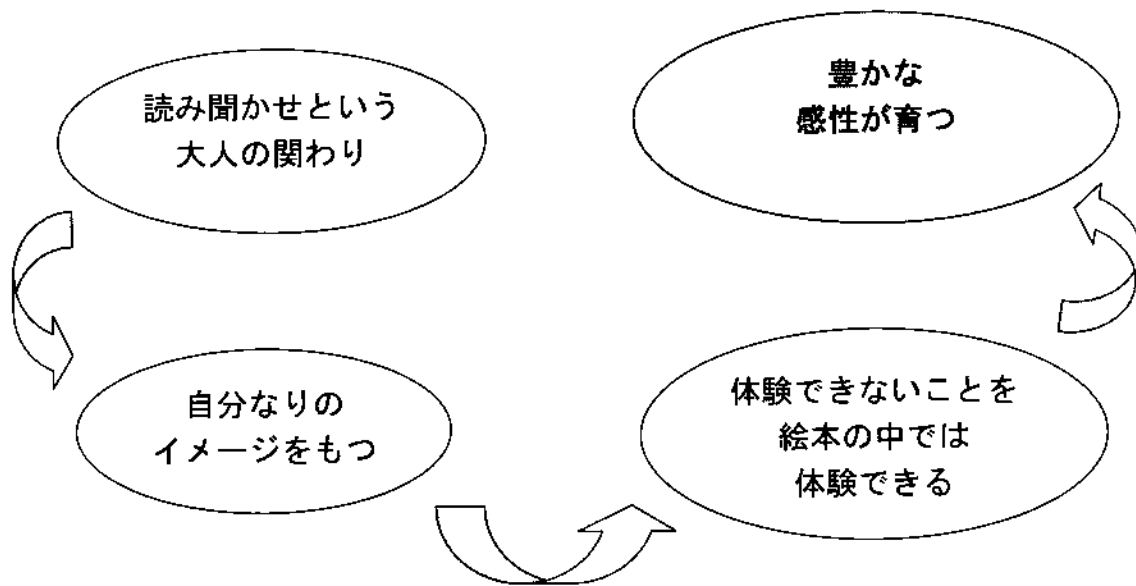
③手作りのぬくもりが伝わる。

「先生、おもしろかった」「また、見せてね」子ども達からの言葉に励まされる。少し苦勞をして、時間をかけても自分の手で作りあげたものが受け入れられた喜びがある。手作りの作品は作った人の心が伝わる。製作しているときは決して、むだな時間ではなく子ども達が喜ぶ姿を思い浮かべながら楽しく作る喜びを感じている。



(2) 絵本の読み聞かせによる感性の育ち

どんなにいい絵本があっても、読み聞かせという大人の関わりなしに子どもは絵本を楽しめない。読み聞かせという大人の愛情に支えられて、絵本のことばが心地よく子どもの耳に届き、ことばの少ない子どもでも「耳ことば」として受け止めることができる。自分なりのイメージをもって、絵やことばを楽しむことができる。遊びの体験を通して子どもは、成長、発達することがそこに読み聞かせという絵本体験がプラスされると、子どもの遊びがより豊かになる。また、遊びの中だけでは体験できないものを絵本の中では体験でき、豊かな感性から知的好奇心までバランスのある子どもの成長発達を見ることができる。



心をこめた読み聞かせ

聞いてくれる対象である子どもに優しい気持ちを届けようとする愛情が一番である。忙しくて絵本が読めなかったというような保育、子どもが追いまわされてゆとりのない毎日では情緒不安定な子どもになってしまう。ゆったりとした気持ちで絵本に集中し楽しむひと時を毎日継続することに、読み聞かせの価値がある。絵本から自分の生活体験と重ね、想像力を出しきって絵本の世界で主体的に感性豊かに育っていく。



(3) 書画カメラを通しての共有と表現

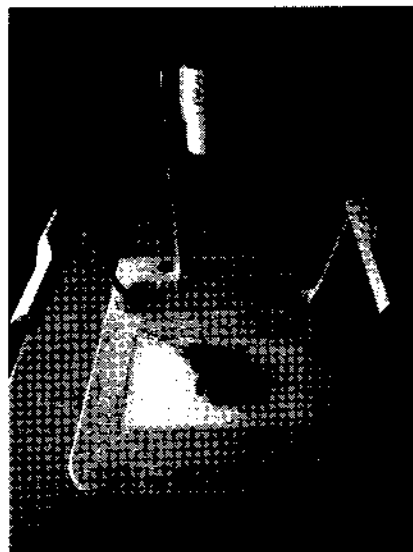
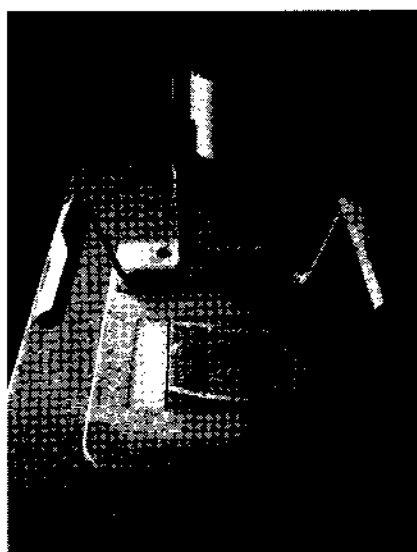
書画カメラの特徴として手元に用意した写真やイラスト、絵本や実物（植物・子どもの作品）などの立体物や教材などを投影することで、小さな文字や絵などの細かい線まで鮮明に再現し視覚を通して感動を共有することができる。

大画面から得られる効果（書画カメラとパワーポイント）

- ①集中力が養われる
絵本の世界を大画面に、映し出すことの効果
- ②印象づけに効果的である
大画面に映し出すことで視覚への印象が強くなる
- ③詳細が見える
絵本の中の細かな部分までよく見え新たな発見ができる
- ④共有感が育つ
みんなが同じ画面を見ることで絵本の世界を共有することができる

書画カメラにおける絵本の選択と活用の仕方

- ①絵の色合いが鮮やかな方が、映えて映し出される
- ②絵本の大きさとして、A4サイズ程度の方が扱いやすいようである
- ③動きを入れた方がよい場面は、絵にポイントをあてゆっくり絵本を動かしていく方法も効果的である
- ④読み手は、絵の場面に合わせてゆっくり語りかけるとよい
- ⑤絵本の終わりは余韻を残してゆっくり絵本をとじ、絵本の世界に浸たれるような間をおくとよい
- ⑥絵本を閉じたら、裏表紙を別の用紙（カラーケント等）で除々に、隠していく方法も効果がある



6 年間計画 (教材の工夫と活用)

項目	4月	5月	6月	7月
<p>幼児の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活に対する不安と期待から緊張感がある。 ・初めての集団生活で不安定な子と、積極的に遊びにかかわる子との個人差が見られる。 ・遊びを見つけて取り組むが友だちとのつながりはあまりない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活の流れがわかり、友だちの様子に興味を持ち、触れ合いを楽しんでいる。 ・クリンデナーなどで、園庭の清掃をし、きれいな環境になったことを喜んでいいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びに取り組み、好きな場所で遊ぶ中で、気のあった友だちができてくる。 ・小動物の世話を進んでやったり、自然現象への関心もみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が活発になり、いろいろな事に興味関心を持って関わり、友だちと考えを出し合いながら、遊びを進めている。 ・多くの子が身近な自然にかかわって遊び、虫捕りなど盛んである。
<p>絵本</p>	<p>ノンタンぶらんこのせて ぐりとぐら ぐるんぱのようちえん ぐりとぐらのえんそく ねずみくんのチョッキ ウオーリーをさがせ どうぶつの絵本や図鑑</p>	<p>そらいろのたね あさがお 花や虫の図鑑 はらぺこあおむし こすずめのぼうけん せんたくかあさん ねずみのでんしや ぼくにげちやうよ</p>	<p>もりのはいしやさん わらってよかばのはいしやさん かわいそうなぞう おじさんのかさ どろんこハリー おりがみの絵本</p>	<p>たなばたさま うみべのハリー スイミー ねずみのかいすいよく さかな、うみの絵本や図鑑 ぐりとぐらのかいすいよく そらやほしの図鑑</p>
<p>紙芝居</p>	<p>おともだちいっぱい トントン、はいていますか？ コロちゃんえんそくおおさわぎ たのしいようちえん あか、き、あおはなあに？ みんなあつまれってなあに</p>	<p>たのしいおべんとう どうしてこいのぼりあげるの さっちゃんのカーネーション ゆうぐのあんぜん からだをしらべよう</p>	<p>しつていませすかむしば はぶらしシシユシユツ からだのせいけつ つとむくのかばみがき わにのはいしやさん とうちゃんありがとう じしん、かじるとき プールあそび</p>	<p>ガロとあさがお あさがおアパート たなばたのはなし おりひめとひこぼし みんみんぜみのうた せみがおとなになるとき</p>

項目	月	4月	5月	6月	7月
歌 リズム ゲーム		ちゅうりっぷ おはながわらった ぞうさん むすんでひらいて 手をたたきましよう すてきなともだち 大きな栗の木の下で かごめかごめ あぶくたった	こいのぼり おかあさん せっけんさん ことりのうた ありさんのおはなし あくしゅでこんにちは ディズニ－体操 ハンカチおとし	はみがきましよう とけいのうた おおきなふんどけい あめふりくまのこ かえるのうた はないちもんめ しりとりにあそび フルーツバスケット	きらきらぼし しゃぼんだま たなぼた せみのうた キャンプだホイ なぞなぞあそび ヤッホッホ夏休み いすとりゲーム
手遊び 手話		八べえさんと十べえさん 一丁目のドラねこ げんこつ山のたぬきさん グーチョキパー にわとりかぞえうた 手話「おはながわらった」 「せんせいとおともだち」	おべんとうぼこのうた あさがおコリヤコリヤ 一匹の野ねずみ ころころたまご はじまるよはじまるよ ハンカチうさぎピョン 手話「あったかいね」	ねずみのはみがき やまごやいっけん たまねぎせせせ ちいさなにな 手話「あめふりくまのこ」	おほしさまゆび 手話「きらきらぼし」 「あの青い空のように」
パネルシアター		ちゅうりっぷ おはながわらった	だれでしょう	ピコピコテレパシー	しゃぼんだまとぼせ
読み聞かせ 書画カメラ(S) パワーポイント(P) OHP(P)		S「ノンタンシリーズ」 S「ねずみくんのチョッキ」	S「そらいろのたね」	S「ぼくのはなさいたいけど…」 P「おたまじゃくしの101ちゃん」	S「ねずみのかいすいよく」 P「はらぺこあおむし」 O「はたおぼしとひこぼし」

項目	月	9月	10月	11月	12月
幼児の姿	<p>・夏休みに経験したことを、話したり、再会を喜んでいる。</p> <p>・友だちどうしの結びつきが深まり、何人かのグループで遊ぶ姿が見られるようになる</p>	<p>・戸外で体を動かして遊ぶことを好み、いろいろな運動遊びに興味を持って関わり、自分なりの目標を持って、挑戦したりしている。</p>	<p>・友だちとの関わりが、多くなり、自分の表現も楽しみながら友だちの思いも受け入れて、遊びを充実させている。</p>	<p>・共通の目的に向かって自分の考えやイメージを出し合って、協力して遊ぶ姿が見られる。意欲的にいろいろな遊びに取り組んでいる。</p>	
絵本	<p>パパおつきさまとって</p> <p>14ひきのおつきみ</p> <p>つきのぼうや</p> <p>とんぼのうんどうかい</p> <p>11ひきのねこシリーズ</p> <p>だってだっておばあさん</p> <p>かぐやひめ</p> <p>きょうりゅうの絵本や図鑑</p>	<p>とべ ぼった</p> <p>だんまりこおろぎ</p> <p>かえるのつなひき</p> <p>だるまちゃんどてんぐちや</p> <p>ん</p> <p>どろぼうがっこう</p> <p>14ひきのとんぼいけ</p> <p>はじめてのおつかい</p> <p>ぼくのくれよん</p>	<p>からすのパンやさん</p> <p>おおきななおおきなおいも</p> <p>しょうぼうじどうしゃじぶた</p> <p>14ひきのやまいも</p> <p>さるかに</p> <p>ちいさなくれよん</p> <p>からだのえほん</p>	<p>サンタクロースシリーズ</p> <p>ぐりとぐらのおきやくさま</p> <p>どうぞのいす</p> <p>ふとりすぎですよ サンタさん</p> <p>ぐりとぐらのおおそうじ</p> <p>おしよがつ</p>	
紙芝居	<p>うんどうかいってのしいな</p> <p>だいすきうんどうかい</p> <p>おぼあちやんありがとう</p> <p>カチャーシーおどろうよ</p> <p>おつきさまとさぎ</p> <p>ひるとよるがはぶんぶんずつの日</p> <p>たいふうがくるぞ</p>	<p>ぼくはかぶとむし</p> <p>あきのむし</p> <p>ぶんぶくちやがま</p> <p>いっすんぼうし</p> <p>みにくいあひるの子</p> <p>あきのくだもの</p>	<p>風邪の予防</p> <p>じんかじのとき</p> <p>からすのはいたつやさん</p> <p>りすさんのどんぐりさがし</p> <p>ワンタくんのしょうぼうし</p> <p>七五三おめでとう</p>	<p>クリスマスのおくりもの</p> <p>かめさんのふゆごもり</p> <p>いちばんはじめのサンタクロース</p> <p>わすれんぼうのサンタクロース</p> <p>のねずみとまちのねずみ</p>	

項目	月	9月	10月	11月	12月
歌 リズム ゲーム	とんでった表わらぼうし 運動会の歌 校歌 運動会のリズム こおろぎ ラジオ体操 星砂のうた 赤田首里殿内 エイサー	えんそくにいこう どうぶつえんにいこう アブラハムの子 おもちゃのチャチャチャ えんそくパス じんじん 島人ぬ宝	ちいさい秋みつけた まつぼっくり もみじ メトロポリタン美術館 どんぐりころころ ちんさぐぬ花 こうじやー馬小	赤鼻のトナカイ あわてんぼうのサンタクロース お正月 12支かぞえうた ジンギスカン ジングルベル	
手遊び 手話	十五夜さんのもちつき 手話「とんぼのめがね」	手話「てのひらを太陽に」 すうじのうた	やきいもグーチャーパー 手話「ともだちになるため に」 はっぱであそぼう (手作り)	手話 「まあるいいのち」 「赤鼻のトナカイ」 あわてんぼうのサンタクロース	
パネルシアター	ぞうさんのぼうし				
読み聞かせ 書画カメラ パワーポイント OHP	S「ありがとう！ぴよんたとくまのロンじいさん」 P「スイミー」	S「おおきなかぶ」	S「からすのパンやさん」	S「ぐりとぐらの おきやくさま」	

項目	月	1月	2月	3月	「表現」との関わり
幼児の姿	<p>・冬休みの経験を話したり、友だちと楽し誘い合って、正月遊びを楽しんだり、戸外で元気に遊びを進めている。</p>	<p>・寒さに負けず元気に戸外で遊ぶ子が多く見られるが、室内遊びを好んで見通しをもつて遊びを進めている。</p>	<p>・残り少ない園生活を、伸び伸びと行動し、楽しむ姿が見られる。 身近な自然の変化に気づき、自分から関わっていく。</p>	<p>・言葉、行動、遊びの中で表現している事が多く、内面をだし自己表現する楽しさを味わえるようにする</p>	
絵本	<p>あけましておめでとう 十二支のはなし おにムーチー かさじぞう たこをあげるひとまねこざる てぶくろ ハリーのセーター</p>	<p>おなかのなかにおにがいる ないた赤おに じめんのうえとじめんのした ずとずとすきだよ はなをくんくん こんとあき ともだちほいほいなおおかみくん</p>	<p>もうじき一年生 おひなさまシリーズ あいうえおのほん</p>	<p>・絵本のストーリーの世界に入り、自分の思いと比べたり感じることが出来る ・心や感性、言葉、コミュニケーション等の育ちとの関わりも見られる</p>	
紙芝居	<p>たのしいおしやうがつ みつつかな？</p>	<p>かみしばいおに ふくはうちおにはそと むかしむかしおにがきた さくらのはなとうめのはな こんこんクシユン</p>	<p>のはらのひなまつり みんなであつたおひなさま ななじゅうまるのおひなさま ももこのひなまつり</p>	<p>・昔ながらの暖かさが伝わり場面の移り変わりや、読み手の語りを楽しめる</p>	

項目	月	1月	2月	3月	「表現」との関わり
歌 リズム ゲーム		はつゆめヨンヤサ たこのうた あんたがたどこさ やぎさんゆうびん こどもの世界 おしくらまんじゅう	豆まき カレーちゃん エイサー オペレッタ 体操 おおかみとこやぎ	うれしいひなまつり おもいでのアルバム どきどきドン一年生 いちねんせいになったら みんなともだち	・声を出して歌うと言うことで、 気持ちを表すことができる ・リズムに合わせて体を動かす、 リラックスできる ・動きを楽しみながら友だちとの 関わり合いがもてる
手遊び 手話		1 2月のかぞえうた 手話「まほうのことば」	手話「花さき山」	「まほうのことば」 「ともだちになる ために」	・いつでもどこでも気軽に手や指 を使って、遊ぶことができ楽しい 雰囲気味わえる
パネルシアター		すうじのうた	カレーライス	おもいでのアルバム	・視覚を通して興味を持ち自分も やってみてみたいという思いから、演 じることができる
読み聞かせ 書画カメラ パワーポイント OHP		P「てぶくろ」	S「あかいりぼんのおくりも の」	幼稚園での生活のおもいで を幼児同士で見せ合う ・絵や作品 ・遊びや生活の写真 ・実物（植物、物など）	・書画カメラで映し出した絵本の 世界を楽しんだり、実物を映しだ す体験から発見につながる ・絵本をスクリーンに大きく映 し、みんなで感動を共有すること ができる

7 家庭における幼児の実態調査

(1)調査の目的

幼児の降園後の遊びや生活についての実態調査をし、幼児と感性とはどういう関わりをもっているかを知ることによって今後の研究の充実と幼児理解に努めるために行った。

(2)調査の方法と対象

ア アンケート調査 (2園対象)

イ 志真志幼稚園 73名中 64名 (回答率87%)

大山幼稚園 133名中 112名 (回答率84%)

計 206名中 176名 (回答率85%)

(3)調査結果と考察

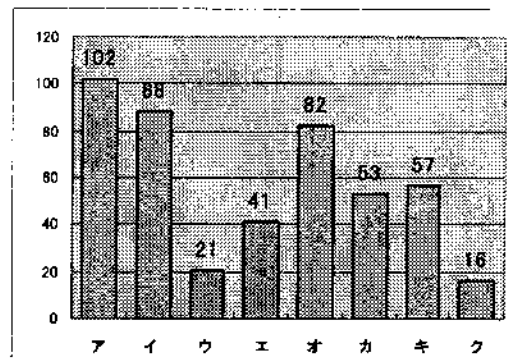
問1 幼稚園から帰ったらどのような遊びをしていますか。(複数回答)

ア 外で遊ぶ イ テレビ・ビデオ ウ ゲーム

エ 絵本 オ お絵かき カ 製作あそび

キ ごっこあそび ク その他

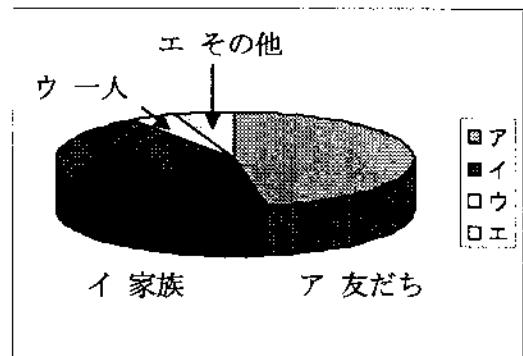
問1では、外で遊ぶ子が多く102人をしめ、数値的には多いが、室内遊びも多い。室内においてはビデオやテレビ、絵かきや製作あそびなどが多く、ゲームが少なめである。絵を描くのは多いが絵本を見るのは少ない。



問2 降園後、おもに誰と遊んでいますか。

ア 友だち イ 家族 ウ 一人 エ その他

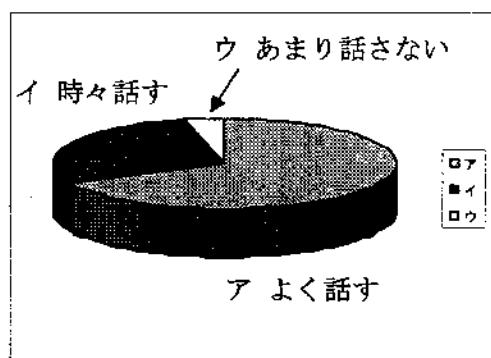
問2では、友だちと遊ぶことが多い幼児は47% (83人)、家族で遊ぶ幼児は43% (76人)、一人で遊ぶ幼児は4% (7人)、一人で遊ぶという幼児は近所に友達が少なく関わりがもてないこともある。又、一人で遊ぶという数値は少ないが考慮していくべき結果といえる。



問3 お子さんは、幼稚園での出来事を話しますか。

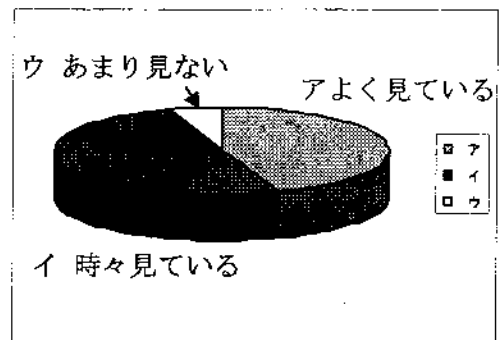
ア よく話す イ 時々話す ウ あまり話さない

問3では、園での出来事をよく話す子が68% (119人)で家庭とのかかわりを持っている子もいるが時々話す子が28% (50人)で、あまり話さない子4% (7人)である。園での様子にも配慮しながら話したり表現できるようにもっていく必要がある。



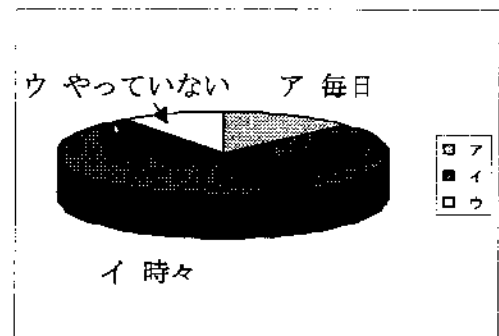
問4 お子さんは、お家で絵本を見ますか
 ア よく見ている イ 時々見ている
 ウ あまり見ない

問4では、絵本を時々見る子が多く51%でよく見ているという回答は44%である。あまり見ないが5%、幼児が絵本を見る環境や興味についても今後、見ていく必要がある。



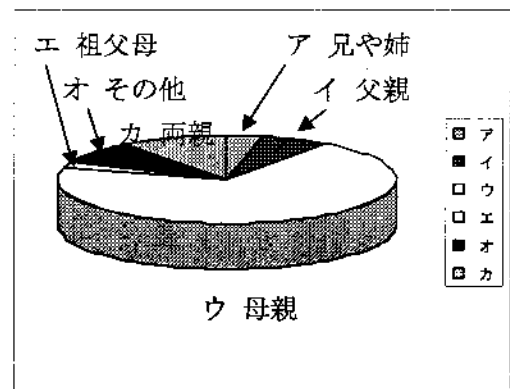
問5 絵本の読み聞かせをしていますか
 ア 毎日 イ 時々 ウ やっていない

問5では、絵本の読み聞かせについては時々が77%、毎日が13%で少ない。やっていないは10%である。園においても読み聞かせの時間を確保し、幼児が絵本は楽しいと感じられるようにしていく必要がある。



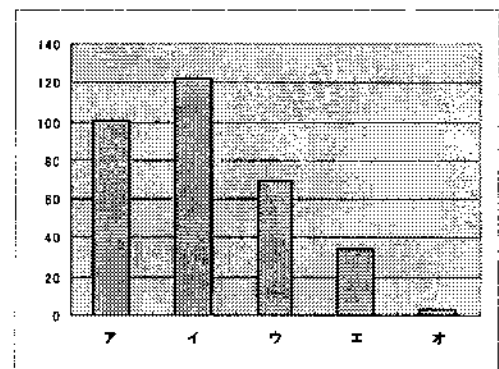
問6 おもに読み聞かせをするのは、どなたですか
 ア 兄や姉 イ 父親 ウ 母親
 エ 祖父母 オ その他

問6での読み聞かせは、母親がかかわっている家庭が多く70%である。兄や姉が3%父親が6%、祖父母が2%で読み聞かせをやっていない家庭は少ない。両親で読み聞かせにかかわっている家庭が(10%)も見られた。



問7 絵本の読み聞かせで育つと思われるものは、なんですか(複数回答)
 ア 心が育つ イ 感性が育つ
 ウ コミュニケーション エ 言葉 オ その他

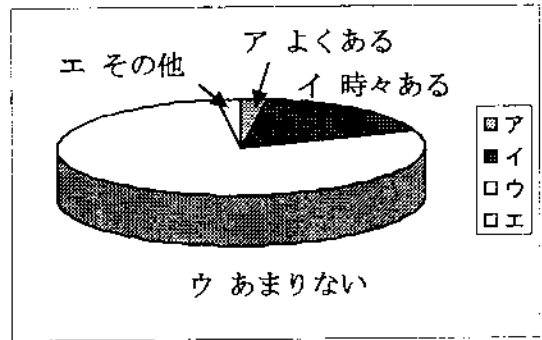
問7では、2つ選んでもらうことにした。感性が多く占めており、次に心、コミュニケーション、言葉と続いている。親の考えと保育者の考えが共通する点では、「絵本の読み聞かせ」による心と感性が育つ効果は、大きいと思われる。



問8 家庭で音楽会や演劇，舞踊などに行く機会がありますか

- ア よくある
- イ 時々ある
- ウ あまりない
- エ その他

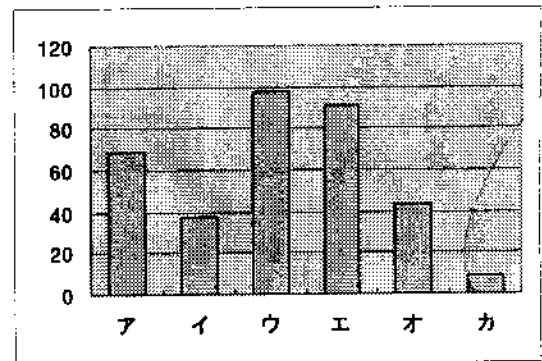
問8では，音楽会や演劇などへいく機会は，ウのあまりないが圧倒的に多く79%で，よくあるが2%，時々あるが17%である。感性が育つ大事な時期に機会を持つことの大切さを伝えたい。園においても，幼児のふれあう機会を多く持つことを計画したい。



問9 どのような遊びを好みますか

- ア リズム遊びなど体を動かすことが好き
- イ 歌をうたうのが好き
- ウ 折り紙や製作などが好き
- エ 絵をかくことが好き
- オ サッカー・野球等の運動遊び
- カ その他

問9の好む遊びを見てみると，折り紙，絵，リズム，サッカー・野球，歌と続いている。折り紙や製作など作ったりするのが好きで次に体を動かす遊びが好まれている。

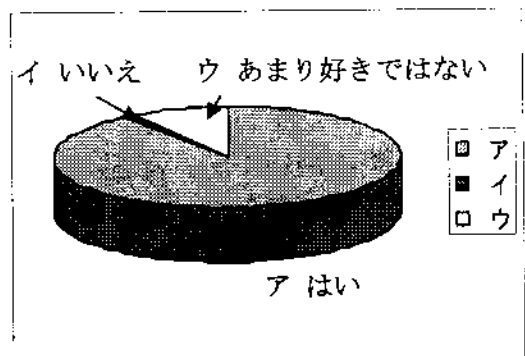


問10 動植物は好きですか

- ア はい
- イ いいえ
- ウ あまり好きではない

問10では，動植物が好きな子は90%であまり好きではない子が9%である。動植物が好きな子も多いがあまり好きではないという回答もあり，苦手な子へのかかわりも大事にしていきたい。

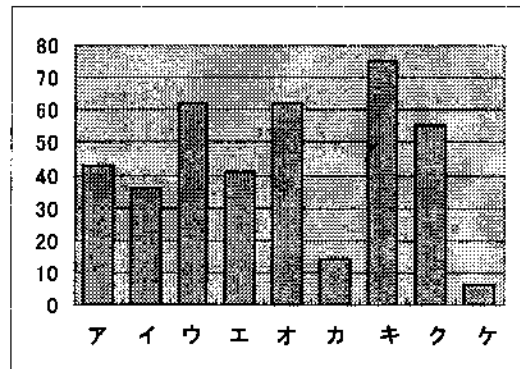
やさしい気持ちや思いやりの気持ちを育む幼児期に，園内の環境構成と援助の仕方を考えていきたい。



問11 お子さんが好きな生き物はなんですか（複数回答）

ア 金魚・グッピー イ かめ ウ うさぎ
 エ コオロギ（虫） オ ハムスター カ 鳥
 キ 犬 ク ネコ ケ その他

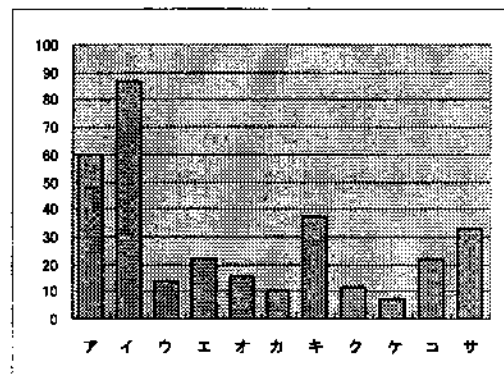
問11では、幼児が好きな生き物は犬→うさぎ→ハムスター→ネコと続く。うさぎ、ハムスターは幼児に人気があり、かかわりたい動物に入っているようである。少ない方では、鳥があげられる。身近に飼っている動物への興味がうかがえる。



問12 お子さんは、どんな草花や木が好きですか（複数回答）

ア チューリップ イ たんぽぽ ウ コスモス
 エ ハイビスカス オ すみれ カ がじゅまる
 キ さくら ク しろつめぐさ
 ケ インパチェンス コ バラ サ その他

問12では、好きな草花は、たんぽぽが多い。あたたかい、やさしいイメージを感じているのではないだろうか。多くの草花を知っていることもわかった。身近にあったり、園庭や野原等に見られる草花や遊べる花が人気がある。ひまわり、あさがお、ゆりの項目も入れる必要があった。一緒に花の名前を表示したり育てたりすることで関心も深まる。



アンケートの考察

- ① 今回のアンケート調査で、幼児の家庭での様子や興味関心を知り、感性とのつながりを考察する手立てとなった。
- ② 家庭でのかかわりや育ちの面で、親の思いに触れることができた。
- ③ 幼稚園においても、友達とのかかわり合いの中で体験したことを伝えたり、表現することが楽しくできるような環境と援助が大切である。
- ④ 設問によっては、回答項目を増やした方がよい箇所もあった。

平成 16 年 6 月 3 0 日

保護者の皆様へ

志真志幼稚園
大山幼稚園

アンケートについてのご協力願ひ

このアンケートは、お子さんのご家庭での遊びの様子や読み聞かせについてお尋ねします。
保育の手立ての参考にしたいと思っておりますので、お忙しいところ、まことに申し訳ありませんが、
ご協力よろしくお願ひします。(該当するものに○印をつけてください。)

- (1) 幼稚園から帰ったらどのような遊びをしていますか
(特に好んで、遊んでいるのを3つ以内で選んでください)
ア 外で遊ぶ イ テレビ・ビデオ ウ ゲーム エ 絵本 オ お絵かき
カ 製作あそび キ ごっこあそび ク その他 ()
- (2) 降園後、おもに誰と遊んでいますか
ア 友だち イ 家族 ウ 一人 エ その他 ()
- (3) お子さんは、幼稚園での出来事を話しますか
ア よく話す イ 時々話す ウ あまり話さない
- (4) お子さんは、お家で絵本を見ますか
ア よく見ている イ 時々、見ている ウ あまり見ない
- (5) 絵本の読み聞かせをしていますか
ア 毎日 イ 時々 ウ やってない
- (6) おもに読み聞かせをするのは、どなたですか
ア 兄や姉 イ 父親 ウ 母親 エ 祖父母 オ その他 ()
- (7) 絵本の読み聞かせで育つと思われるものは、なんですか (2つ以内で選んでください)
ア 心が育つ イ 感性が育つ ウ コミュニケーション エ言葉 オその他()
- (8) 家庭で音楽会や演劇、舞踊などにいく機会がありますか
ア よくある イ 時々ある ウ あまりない エ その他 ()
- (9) どのような遊びを好みますか
ア リズム遊びなど体を動かすことが好き イ 歌をうたうのが好き
ウ 折り紙や製作などが好き エ 絵をかくことが好き
オ サッカー・野球等の運動遊び カ その他 ()
- (10) 動植物は好きですか
ア はい イ いいえ ウ あまり好きではない
- (11) お子さんが好きな生き物はなんですか
ア 金魚・グッピー イ かめ ウうさぎ エ コオロギ(虫) オ ハムスター
カ 鳥 キ 犬 ク ネコ その他 ()
- (12) お子さんは、どんな草花や木が好きですか
ア チューリップ イ たんぽぽ ウ コスモス エ ハイビスカス オ すみれ
カ がじゅまる キ さくら ク しろつめぐさ ケ インパチェンス コ バラ
サ その他 ()

※ ご協力ありがとうございました。お手数ですが、7月9日(金)までに幼稚園へ提出してくだ
さいますようお願いいたします。

VI 実践研究

1 保育実践

(1) 共同保育指導案

活動名 パネルシアターで遊ぼう

平成16年6月24日(木)

志真志幼稚園 ひまわり組
男11名 女14名 計25名

大山幼稚園 1組

男19名 女14名 計33名

教師の思い

子ども達を見ていると自分から話しかけたり、元気に遊びを見つけて行動できる子も見られるが、中には自分の思いをうまく伝えられない子やおとなしく言葉数の少ない子も見られる。パネルシアターで遊ぶことでパネルの不思議さに興味を持ち、自分もやってみたいという意欲につながり楽しいと感じることから、自然に表現できるようになっていくのではと考え、パネルシアター遊びを取り入れた。

幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ガジュマルの木登りや堀登りに挑戦し自分の力を試している。 ・気の合う友だちをさそいあってグループになってごっこ遊びを進めている。 ・せみの鳴き声に懸命に見つけようと、友だちどうしでおいかっこをしている。 ・おおごまだらの幼虫やとのさまバッタなど見つけ、昆虫に興味関心が増えてきた。 ・朝顔のつるや花の美しさ、色、形、大きさ等に関心をもって水やりをしている。 ・シャボン玉あそびでは素材を取り替えたりしながら大きさ、色、形を楽しんでいる。 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ パネルシアターの不思議さに触れ、みんなでお楽しみ。 ・ 友だちと一緒にパネルシアターを演じたりして表現する楽しさを味わう。 	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パネルシアターを通して見たり演じたりして、表現を楽しむ。 ・ 絵人形を作ることで親しみをもち意欲を高める。 ・ 自分で作った絵人形を使って友だちと一緒にパネルシアターで遊ぶ。
展開		
時間	予想される活動	教師の援助と環境構成
8:30	<p>○ 登園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする ・ 所持品の始末をする ・ おたより帳にシールをはる ・ 朝顔や草花に水やりをする ・ 小動物の世話をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気に登園できるように挨拶を交わしながら、健康状態を把握する。 ・ 所持品の始末ができていないか確認し、できていない子には声かけをする。 ・ 朝顔や草花の水やりをする中で生長に気づき、喜びが持てるようにする。

<p>9:00</p>	<p>○ 好きな遊びをする 虫捕り 木のぼり しゃぼん玉遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水遊びの準備をする ・ 水遊びをする ・ 着替えをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外で楽しく遊べるように幼児と共に遊びの場を整えたり準備や片付けをする ・ 虫捕りや木登りでは安全面に配慮しながら幼児の思いがだせるようにしていく ・ 昆虫や小動物との関わりを通して、命の大切さに気づくようにする
<p>10:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水遊びの身支度や後始末ができるように個々に応じて援助していく
<p>10:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手遊びをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水遊びが楽しくできるように安全面に留意していく
<p>期待</p>	<p>○ パネルシアター遊び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手遊びを楽しみながら、雰囲気づくりをしていくようにする
<p>見る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピコピコテレパシーの歌をうたう ・ パネルシアターを見る ・ やりたい子は演じてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前々日に約束していたパネルシアターの紹介をし、楽しみに待っている子どもが多いので気持ちを受け止めながら進めていく ・ 何度もくり返し歌うことで、和やかな雰囲気をつくり、一人一人が表現できるようにする。 ・ 絵人形の出し方に工夫をこらし単調にならないように操作に変化をつけたり、言葉の表現を考える
<p>やってみたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の絵人形を作る 描きたいものをイメージする 食べられるもの 食べられないもの（どちらでもよい） pペーパーにクレヨンで描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ やってみたい子の思いを大切に受け止め、みんなの前で演じたり、共有できるようにしていく ・ 今、演じられない子どもあとで出来ることを伝えていく
<p>作る</p>	<p>○ パネルに貼って遊ぶ</p> <p>パネル版に好きなように貼って遊ぶ</p> <p>友達と会話を楽しみながら動きを楽しむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の絵人形を作る楽しさが伝わるようにする ・ 多くの子が演じることができるようパネル台を増やし配置を考え、友だちとの関わり合いが持てるようにする
<p>楽しい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなの前で演じてみる ・ みんなでやってみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の場で、気軽に演じられるような雰囲気づくりをする ・ 十分楽しめるようにし、弁当後もパネル遊びが続けられることを話し合う
<p>共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロズさみながらピコピコテレパシーを何度も楽しむ ・ 片づけ ・ 手あらい、うがい ・ 弁当の準備をする ・ 弁当 ・ 帰りのひととき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の絵人形は大事に引き出しにしまい、いつでも遊べるようにする ・ みんなで片付けをし、弁当の準備をする ・ 楽しい雰囲気ですべてが食べられるようにする
<p>演じる</p>	<p>○ 降園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車に気をつけて安全に降園が出来るように声かけをし明日への期待が持てるようにする
<p>13:00</p>		

子どもの様子

前々日、子ども達に「見せたいものがあるので、お楽しみにね。」と会話を交わす。

休日をはさんでのことだが、会うと同時に「せんせい、たのしいことがあるんだよね。」

「しかくいもの、もってきた！」と声かけられる。休日をはさんでも覚えていて楽しみにしてくれていることに、驚かされる。「水あそびが終わったらやろうね。」「うん」「じゃーあとでね。」と会話する。楽しみにしている様子が見られ、教師も約束していてよかったと感じる。水あそびの後、着替えもすませ殆んど子ども達が集まってくる。

みんなで手話ソングを楽しみ全員がそろったころ「せんせい、やらないの?」「みたーい」等の声が聞かれた。水遊びの後なので興味や集中もみられないのではという思いがあったのだが、子ども達の方は期待をもっているらしく見る姿勢ができています。まちどおしくしているのでパネル版をだしてみると、「せんせい、てじな!」「えほん」「かみしばい!」「ロボット」「にんぎょうげき!」とわくわくしたような声が聞かれた。

「そうだね、みんなが言ったこととにているよ」一人一人の声を大事にし次への思いがもてるようにする。「絵本のお友だちかもしれないね。呼んで見ようか」みんなで「ピコちゃん」と呼んで見る。

パネルの絵人形をだすと子ども達の「わー」という声があり絵人形が自分と友だちになった様子である。ピコちゃんと名前をつけることで会話も弾み、歌も口ずさみながらやってみる。2～3回繰り返しやっていると、「せんせい、やらない子がいるよ」とT君が隣のA子ちゃんを見て気にしている。心配しているT君の優しさも伝わってくる。「大丈夫だよ、見ていだけでもいいんだよ。」と伝え、T君を安心させてやりA子ちゃんも見ることで楽しんでほしいと思う。何度か繰り返しパネルで遊んでいるうちに、見ていだけだったA子ちゃんの手があがりポーズをしながら歌もうたえるようになってくる。

反省と考察

クラスでパネルシアターで遊ぼうと立案し、子ども達にパネルシアターの楽しさを伝えていく事で自然な表現が出来るのではないかと考え、絵人形を通して目に映る楽しさから遊びへと発展し、自分もやってみたいという気持ちが持てるようにする。自分も演じてみたら出来たという自信と繰り返し遊ぶ楽しさから表現へとつなげていきたい。

- ①パネル版を見て「手品」「絵本」「紙芝居」「人形劇」「ロボット」等、期待を持ちそれぞれの思いを聞くことができた。
- ②パネルシアターが始まると、絵人形がパネル版に付くことに不思議な表情をし、絵人形に話しかけたり歌うことでリラックスし、和やかな雰囲気を感じた。
- ③最初はみんなで口ずさむことで、親しみをもって絵人形を見ていたが、繰り返し遊んでいるうちにパネルシアターの世界に入っていったようである。
- ④テレパシーで当たると「わー」「やったー」「あたってー」の歓声が聞こえ、逆に外れると「えー」と残念そうにし「次は、がんばるぞー」という意欲も見られた。又、答えが同じ友だちどうしで同調し合うこともあった。
- ⑤見ていっているうちにやりたいという思いから立つ子や身をのり出す子、目がパネル版に集中している子等、いろいろな表情を見ることができた。

- ⑥繰り返しパネルシアターで遊んでいると、自分たちもやってみたいという様子が見られたので声かけしてみると多くの子が「はい」「はい」と自分に当ててほしいと手を上げている。前の方で演じてもらいみんなで歌いながら遊ぶことで、全員の一体感もあり演じている子も嬉しそうにしていた。
- ⑦自分の絵人形づくりではPペーパーが初めて使う教材であることと絵を描くことが苦手な子でも楽しめるように、簡単に描ける絵描きあそびを試みる。予想では同じ絵を描く子もいると思われたが、楽しくはいついけることに重点を置き、同じものを描いても、形、色、等書き加えたりし、個性がでており楽しみながらやっていた。
- ⑧「もっとやりたい」「おもしろい」という声が聞こえ、みんなの前でも、絵人形を操作したり自然な表現ができたようである。

見る→楽しむ→演じる→作る→楽しむ→演じあうなど、くり返しパネルシアターで遊ぶ中で充実感が得られたようである

パネルシアターを見終えての子どもの様子

パネルシアターは、子ども達にとって初めて見る教材なのでとても興味を示していた。普段は引っ込み思案な子どもも目を輝かせて、楽しそうに見ていた。

パネルシアター後は、ピコピコテレパシーの歌をうたいながら、自分たちでパネルシアターをやり、遊ぶ姿が見られた。

最初は、触りたい、貼ってみたいという思いがあり、パネル版の前に集中していたが、徐々に何がかくれているのかを当てる喜びを知り、大きなリアクションで喜んだり、がっかりしたりする姿が見られ、遊びを楽しんでいた。

他のクラスの友だちも仲間に入れて教えてあげながら、みんなでゲームを楽しむということを覚え、ピコピコテレパシーを喜んでやっていた。

慣れてくると、自分たちで保育室の隅にあるパネル台をだして遊んでいた。子どもどうしで「これは、みんなの大好きなものだよ!」「これは、しましうちえんにあるものだよ!」とヒントを出しあって楽しんでいた。

パネルシアターを遊びの中に取り入れるようになると、子ども達は、みんなで一緒に遊ぶことやゲームをすることが多くなり、フルーツバスケットなどがはやりだした。

(幼稚園からの声)

パネルシアターを見終えての子ども様子

パネルシアター遊びの翌日、絵かきをしていた子が「先生みてみて」「これ、りんご」「これは、みかん」と描いた絵を見せてくれる。すると、周囲にいた子も「わたしもかきたい」と言い描き始める。描きながら「たべられるもの～♪」と歌っている子、「これはたべられるもの？」「たべられないもの？」等、話しながら描いている子、昨日のことを思い出しながらそれぞれ描いている。

友だちどうしパネルシアターで遊んでいる。教師も一緒になって遊び「どんな歌だった？」と聞くと、数人の子が「♪～たべられるものマル！（○）」「たべられないものバツ！（×）～」と歌い出す。何回かやっていくうちに「わたしもやりたい」と言う声が聞こえてくる。

その日のお弁当の後、数人の子が自分たちで作った絵人形を触りながら遊んでいる様子が見られる。その様子から、誕生会での出し物を提案してみる。子ども達に話すと、何人かの子がやりたいと言う。そこで数人の子が、誕生会でパネルシアターをやることになる。前もって自分たちが作った絵人形から、数個選んでおき演じて見せる。「いえーい！」「あたったー」「あ～あ」など子ども達の歓声がわき上がる。パネルシアターをやって見せた子ども達も満足そうである。

おとなしくて、自分の思いを他児に伝えられず泣いて教師に訴える事が多かったH君だが、誕生会の出し物のパネルシアターをやりたいと希望し、少し緊張している様子だったが、みんなの前に出て、もじもじすることなくやって見せていた。その後も、パネル版の前では、「たべられるもの～♪」と歌いながら友だちと一緒に遊ぶ子ども達の姿が見られた。

(幼稚園からの声)



パネルシアターで遊ぼう



なにがはじまるかな？



たべられないものだと
おもうよ



たべられないもの
ばっ！



よし、こんどはぜったい
たべられるもの！



みんなのまえでやって
みたいな！



なにがかくれていると
おもう？ あててみて



おいしそうなおこさま
ランチだね！



ぼうしのなかになにか
かくれているかな？

パネルシアターで遊んでる様子



事例1 書画カメラの活用

志真志幼稚園（ひまわり組）

大山幼稚園（1組）

絵本の読み聞かせを通して

「ねずみのかいすいよく」

絵本がきれいというM子ちゃん

T「今日は、おもしろいものをもってきたのでみんなで見ようね。」

「みんなは、絵本は好きですか？」

「好き、好き」

M子「きれい」

T「Mちゃん、絵本きれいなの、どうしてかな？」

M子「Kちゃんがじゃまをするから」（弟の名前を言いながら困った表情をしている）

T「そうか、Mちゃんが見ている時に、弟のKちゃんも見たいんだね。」

「Mちゃんは、幼稚園で先生やお友だちといっぱい見ようね。」

M子「うん」（笑顔でうなづく）

書画カメラを見て

「えほん、みたい！」

「わかる、わかる」

R君「ひかりみたいに、えいがみたいにうつす！」

「えほんで、やっている」

「わかる、わかる、」（絵本を見て、知っている絵本なので得意そう）

「みたことある！」

R君「あー、このきかいでやっているー」（書画カメラに関心を示す）

絵本の世界へ

「ねずみおよぎってー」（泳ぎの種類に関心をもち笑う）

「ちょー、まいんだー」（海辺のかいすいよくの人を見て言っている）

「まいごに、なるはずよー」（心配そうに…）

「サーフィン」

「さめがきたら、」

「おとうさんも、ねてる」

「かにが、いる」「かにがいる」（文字がなく、絵だけのページは細かいところまで

「チョコキ、チョコキ、チョコキ」 見ており、友だちと会話を交わしている）

「とおれん、だろう」（波がよせてきたので、心配そうに言っている）

「やばいよー」

「しまながしってー」

絵本を見終わって

「もう、1かいみたーい」「おもしろかった」「たのしかった」

「また、みたい」「こんなぐらい、みたーい」（両手をひろげて、動作で表現している）

書画カメラで遊ぼう

T「みんなで、見てみよう、何が映るかな？」

T君「じゃーでんき、けしてー」(はっきり映ることを自信ありげに言うT君)
「ちゅうりっぷ？」

T「なにかな？見ててね。」(前に描いてあった、子ども達の絵を映しだして見せる)
「かみきりむしがいる！」

「Yちゃんのだー」(自分の描いた絵が、スクリーンに大きく映っているのを見て満足そうな表情をしている)

子「でっかーい」「おおきーい」(スクリーンを見て、大きな声で言っている)

T「お花畑だね、きれいだね」

R君「あ、J君のだ！」(スクリーンに映った友だちの絵を当てて喜んでいる)

T「J君のだって、J君 あっていますか？」

J君「うん、」(照れながらも嬉しそうな笑顔を見せる)

T「1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 7本もお花があるね。」

「次はー」(間をもたせて、出して見せる。)

「しゃしんだー」(写真も映るのかなと不思議そうな顔をしている)

T「写真、映ると思う？」(三人で、見入っている写真を書画カメラの台におく)

「あ、IちゃんとNちゃんとT君だー」

T「なにか、見ているね、何を見ているんだろう？」

「絵本、見ているんだよ！三人で」(H君が、得意そうに答える)

「MちゃんとAちゃんだ」(次の写真も、みんなで当てる。)

「バリバリ、お面みたーい」(折り紙で作ったお面をつけて、写っている)

砂場で、5～6人で、穴掘りをしている写真が映るのを見ると、

T君「T君たちが、穴掘りしたのー」(嬉しそうに、伝えてくる)

「わあー、ぼくもいるー」(自分が映っているのを見て、驚いている)

N子「よく見て、ここにだれかいるよ！」(ままごとコーナーで、ごっこ遊びをしてい

T「本当だ、誰かいるね」
て棚の下をベットにみたくて寝ている)

お花も、うつるかな？

「わー、きれいー」

R君「はっば、ちょっと まえにして」(上から見たい様子)

「すみれ？」

S君「れんげそう？」(S君、れんげそうの花も知っているらしい)

「もう、ちょと」(興味があがってきたようで、はっきり見たい思い)

R君「しろいものが、見えた」(花の中を見て、言っている)

「わー、ちかい ちかい」(大きく映った花を見て、感激している)

H君「みんなー、すわらないと」(みんなが、立ったので座ってほしい様子)

「はっばに、にているー」「でも、いろがちがう」

「あさがお」「ばら」「まつばぼたん」「中を見てごらん」

U君「なか、みたーい」(花の中を、見たいようである)

自分の好きな物を映して遊ぼう

(映したいものを、見つけて書画カメラの方へ行く、どの子も真剣な顔をしている)

T君「ならないとー、そのほうがはやいよ」(T君の声かけでみんな並んで待つ)

S君(コリウスの葉っぱをとって、最初から決めていたように、映し出して見入ってる)

G君(こまを見つけ、書画カメラの上で回してスクリーンに映ったこまと見比べている)

S子、(普段、おとなしい感じのSちゃんが、ビー玉を見つけて迷いもなく映しに行く)

Y君(野球ボールを見つけて喜び、書画カメラの方へ、並びに行く)

N子(スティックのりを書画カメラの上におき、縦、横、上と向きを変えて見ている)

T君「これ、映してもいい？」(手に透明のビニール袋をもって、試したいような顔をしている)

T「すごい、T君いいのを見つけたね」(子どもの面白い発想に感心させられる)

T君「やったー、うつつたー」(ビニール袋がうつつたので、歓声をあげる)

M子(絵本がきれいといっていたMちゃんは、ガラスでできたキティちゃん人形を大事そうに持ってきて映している)

T「ガラスみたいなものも、映るね」(Mちゃん笑顔でうなづき、次のものを取りに行く)

S子「わーきれい」(花を両手にもち、1本ずつ映し出した後、全部の花を書画カメラの上へのせ、色合いを楽しんでいる)

A君(写真の上に1枚の葉っぱをおき、写真の一部を葉っぱで隠したりして遊んでいる)

C子「みつをすったら、あまいよ」とサルビアの花を映しながら、言っている。

N君(サンダンカの花びらの1つをくるくると回しながら映し、楽しそうに遊んでいる)

考察

- ①幼児は絵本が好きという子が多いが、絵本がきれいという子どもの声も聴いてあげることできらいという内面もわかり、原因をとりのぞいてあげるきっかけをつくり、絵本の楽しさを伝えていけたように思える。
- ②子ども達にとって書画カメラは、新しい機器であり、興味、関心は大きかったようである。日頃、手にとって見ている絵本をスクリーンに映し出したことで、絵本の世界に入り、みんなで共有できたことはよかった。
- ③絵本を大きく映すという効果で、絵の細かい部分まで見えてきたことで気づきがあったり、絵本のストーリーから友だちとの会話も聞くことができた。
- ④自分の描いた絵や写真、花など色々なものを映しだす体験を通して感じることで、やってみる楽しさを味わえたようである。
- ⑤子どもなりの発見や感動があり、私達が予想しないことを、やっていくという意欲への感動をもらうことができた。



みんなで
たのしいこと
しようね!

書画カメラに
うつしてみよう

これもうつるかな?
やってみよう

はやく
うつしたいね うん



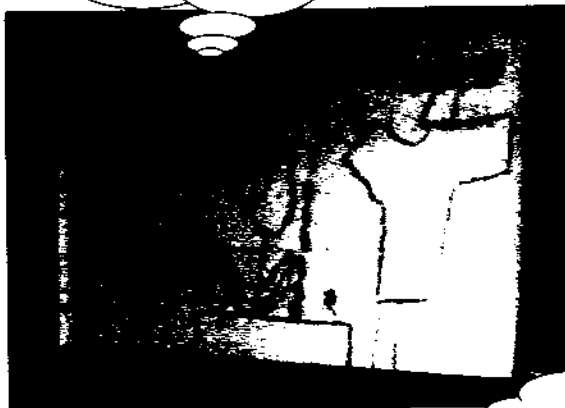
このおはな
うつるかな?

きれい!
ぜんぶのおはなが
うつったー



いろいろなものが
うつったよ
おもしろいね！

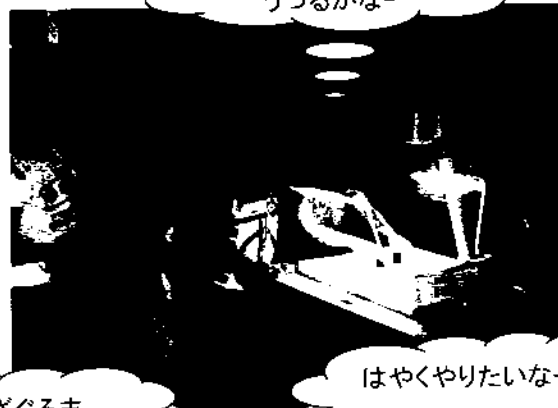
たねをまいて おみずを
やりました
すると はながさきました



はやく やりたいなー
みたいなのー



このおすしも
うつるかなー

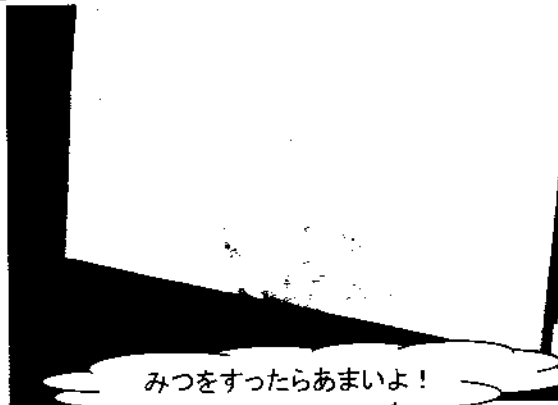


くるくるかざぐるま
みたい

はやくやりたいなー



おはなもうつるね



みつをすったらあまいよ！

事例2 パワーポイントと
書画カメラの活用

志真志幼稚園 3クラス 75名
(プレイルーム)

大山幼稚園 4クラス 133名
(ホール)

絵本の読み聞かせを通して

「はらぺこあおむし」

「ぼくのはな さいたけど…」

ねらい

- ・大画面を通して、友だちと絵本の世界を共有し、楽しむ
- ・様々な素材を映し出すことで、発見や喜びを味わう

内容

- ・絵本の場面の美しさやストーリーを伝え、友だちと一緒に感動を共有する
- ・視覚への印象を通して、興味をもち新たな発見をしたり、出来た喜びを味わう

子どもの様子

幼稚園のみんなで楽しいものを見ようねと伝えてあったこともあり、待ちどおしくしている。

「なに、やるのかな?」「はやく、みたいね」と友だちどうし話している。

子ども達が、集まって、はらぺこあおむしのパワーポイントが始まるとスクリーンに映し出された、「はらぺこあおむし」を見て

「わかる、わかる」

「あおむしだー」

「ほんも あるよね」

「うた、おもしろいよ」(前に、パネルシアターで歌ったことがある)

「しー」

「ちっちゃーい」(たまごを見て言っている)

「はっば」(食べるものをさがしはじめました。)

「はっばを食べる」

「すもも」「チョコレート」「チーズ」「ウィンナー」

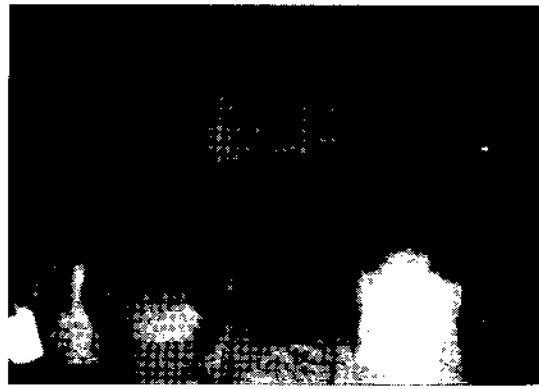
ふとっちょに なったのです。(おもしろそうに笑う)

「どこどこ」(すいかですって!の場面を見て)

「たべて あとだー」

「ちょうちょだよ!」

子ども達が、よく見たり、知っている絵本なので、会話をしたり、予想したりする声が聞こえてきた。



考 察

- ① 「ぼくのはな さいたけど…」の書画カメラでの読み聞かせでは、色彩の美しさやストーリーの持つ、優しさを伝えることが出来た。
- ② 主人公トトの心の動きやモイラの気持ちになり、「トト、かわいそう」「花をきったらだめだよね!」「モイラもいたね」などの声が聞こえてきた。
- ③ 大勢でも見ることができ、みんなで絵本の世界を楽しむことができたということは、成果につながるのではないだろうか。子ども達の真剣に見入っている姿より、感じさせられた。
- ④ 絵本の選択では、大勢を対象に読み聞かせをしたいという、思いがあったので映像が画面に鮮明に映り、優しい色合いの絵のある絵本を考慮した。
- ⑤ 絵本の場面が全部、映し出せないところは、ストーリーに合わせて絵を動かすという工夫をしていったが、その移り変わる場面の良さがあつたとの感想を聞くこともできた。
- ⑥ パワーポイントでの「はらぺこあおむし」の読み聞かせでは、みんながよく知っている絵本ということもあり、「あ、これ、みたことがある!」「つぎは、～だよ」など、ストーリーを予想しながら見ている子もいた。
- ⑦ 読み聞かせの後、「きょう、たのしかったよ」「つぎ、なにをするの」「なんでも、いいよ」「たのしみにしている」等、期待の声を聞くことができた。

「はらぺこあおむし」を見ての子どもの様子

「はらぺこあおむし」のパワーポイントを見終わった後、絵本室から「はらぺこあおむし」の絵本を持って来て、

S 君「せんせい、これちょーおもしろかった」

T 「おもしろかったね。S 君は、初めて見たの?」

S 君「うん、そうだよ! せんせい これー きょう、かりていい?」

「かあーかあーに よんでもらう」

T 「S 君 今日、絵本借りる日じゃないから、ごめんね。でも、いつでも見られるようにお部屋においておこうね。」

S 君「うん、わかった!」

「はらぺこあおむし」を見てのあるクラスの様子

みんなのよく知っている絵本なので、パワーポイントでの「はらぺこあおむし」を見ながら「これ、きょうしつにもあるよね」「みたことある」等と言いながら見ていた。

偶然にも、朝の時間に友だちと「はらぺこあおむし」の絵本を見ている子がいて、そのような発言が出たようである。

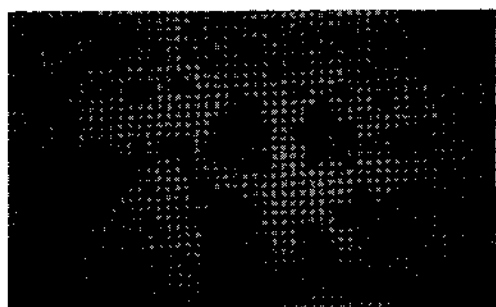
ホールで見た後、部屋に戻ると子ども達から「はらぺこあおむし」の絵本を見たいとの要望があり、絵本の読み聞かせをする。

その後、ちょうちょの絵を描いて、友だちや先生に見せて喜んで遊んでいる姿がみられた。

書画カメラやパワーポイントによる読み聞かせに対する子ども達の様子

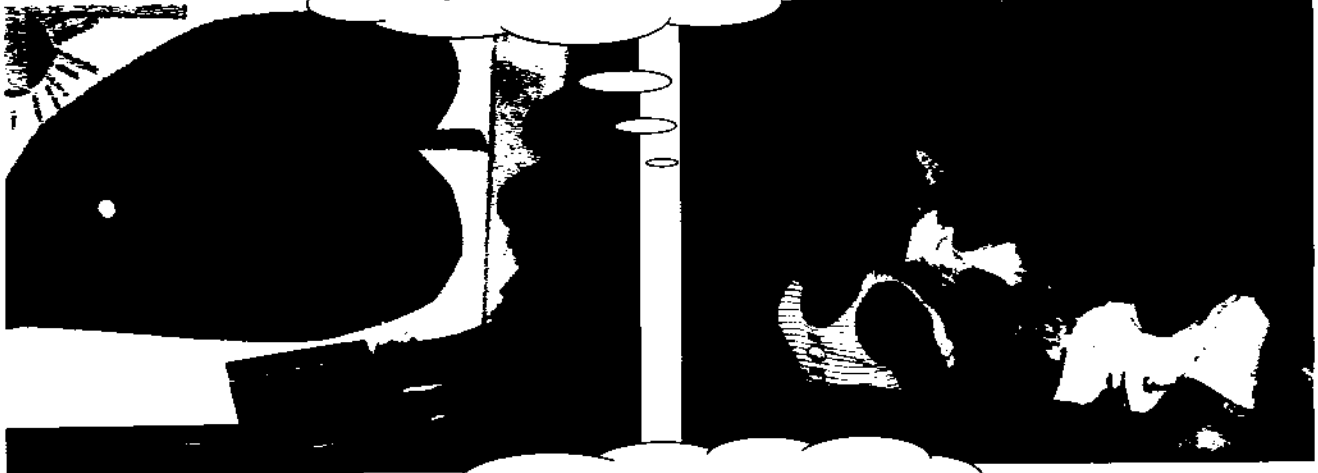
- ① 映し出される絵が OHP とは違う不思議さに集中して見ている子が多かった。
- ② 操作しているところと、スクリーンとを不思議そうに比べながら見ている子もいた。
- ③ 見終わった後、絵本室で「はらぺこあおむし」の絵本を見つけてきた子がいた。
- ④ 「絵本を、はじめます」と教師が声をかけると、「せんせい、うつして！」と要望した子がいた。スクリーンで大きく見たいという気持ちが読み取れた。
- ⑤ 「つぎは、いつやるの？」と尋ねる子がいた。次回を楽しみに期待していることが伺えた。
- ⑥ プレイルームに向かうとき「はー、おもしろくない」と言っていた子が、口もあけて集中して見ていた。見終わった後「おもしろかった！」と言っていた。
- ⑦ 絵本が動かせるのが、おもしろい。見せたい場面、強調したい場面などを見せることができると思った。
- ⑧ 書画カメラからパソコンに移る段階で、マウスが映っていた。その時「あれ、何か？」という声があった。絵本だけでなく、身近にいろいろな物（植物、昆虫、描画など）を映し出すのも子ども達に感動を与えられたと思えた。書画カメラの活用は幅広くできるのではと思えた。

先生方からの声



絵本の読み聞かせ(書画カメラとパワーポイント)

わー はっぱがおおきい！
こんなにおおきくうつるんだね



トの
おはな
どうなるのかな？



ト
かわいそう...



プレゼント
できるかな？

みんなでえほんがみれたね！

つぎは
なにをたべるのかな？

ぼくの
だいじなはなです
とらないでください
ト

ト
やさしいね

おしまい…

VII 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 視聴覚教材の活用を通して感動体験をしていくことで、自分なりのイメージを広げ遊びへと発展し、友だちや教師との感動体験を共感したり、表現する楽しさを味わうことが出来た。
- (2) 理論研究をしていくことで実践がより深められ、又、教師が教材や教具の研究をし、幼児に合わせた手だてをすることで、幼児が豊かな表現をすることができた。
- (3) 子ども達が自分の思いを表現するには、教師との信頼関係やクラスの雰囲気などが大切であることをあらためて、知ることができた。
- (4) 幼児が興味や関心を持てるような教材を活用し楽しさを伝えることで自分もやってみたいという思いが膨らみ、表現へとつながっていったようである。又、友だち同士の表現し合う場ができ、共有する楽しさを味わうことができた。
- (5) クラスでおとなしい子、自己表現がうまくできない子が目を輝かせて見ている姿や演じている姿を見ることができた。先入観で決めつけるのではなく教師のきめ細かい援助で育っていくことを確信することができた。
- (6) 保護者から家庭での幼児の様子を聞くことで、保育の手立てになり研究もより深めることができた。これからも、家庭との連携を密にしながら保育に役立てていきたい。

2 今後の課題

- (1) 「感性とは」「表現とは」の理論研究を深めることができ、実践とかみ合わせていくことでより、保育の手だてとなった。引き続き他の領域とのつながりの研究も深めたい。
- (2) 人間形成をしていく過程で、幼児期、学童期、青年期と切り離せるものではなく、幼児期は特に基礎になる面を多く占めている。その大切な幼児期に様々な感動体験をし、表現する楽しさや相手から認めてもらえることで育っていくことに豊かな感性の育ちもみられる。日々の幼児とのかかわりを大切に、援助のあり方を深めていきたい。
- (3) 教師自身が感じる心を持ち、感性を豊かにすることが、幼児にとってもっとも大切なことであることをあらためて感じ、自己を振り返り今後の保育で幼児と共に感動を受け止めていけるように努めていきたい。
- (4) 幼児にとって、楽しい幼稚園生活が過ごせるような指導計画を立案して豊かな感性が育つ体験を積み重ねていけるような保育の工夫をしていきたい。

終わりに

前期の研修生として、半年間、教育研究所で学ばせて頂きました。こちらでの半年間は教材づくりや理論研究を深め、保育を振り返る機会を持つことができました。

沖縄キリスト教短期大学非常勤講師の宮城久子先生には、テーマ設定から、研究の進め方、実践、まとめまで丁寧なご指導とご助言を頂きました。久子先生の温かいお言葉に励まされ、研究を進めていくことができました。久子先生との勉強会は、幼児にとって何が大切なことであるかや教師の援助についても勉強を深めることができ、とても充実したものでした。私達をご指導くださいました久子先生に、深く感謝申し上げます。

本研究を終えるにあたり、研究の機会を与えてくださいました宜野湾市教育研究所の、宮城茂雄所長をはじめ幼稚園指導主事の八木啓子先生に、感謝申し上げます。研究の進め方や論文のまとめ方など、きめ細かいご指導、ご助言をいただき優しく支えてくださった教育研究所指導主査の上原等先生に感謝致します。パソコン等機器操作に関しては不安もありましたが、ヘルプデスクの小谷良太郎さんに丁寧に指導して頂きました。また、はごろも学習センターの職員の皆様には、優しく励ましの言葉をかけて頂きました。そして、研究を、温かく見守ってくださいました志真志幼稚園の久銘次利男園長をはじめ、職員の皆様、また、大山幼稚園の長濱ミツエ園長をはじめ、職員の皆様には研究活動にご協力頂き感謝致します。

今後、この研修で学んだことを保育に生かしていきたいと思えます。多くの方々に深く感謝申し上げます。

<主な引用文献・参考文献>

- ・小川博久/森上史朗/小田豊/神長美津子（編）「新幼稚園教育要領の解説」ぎょうせい 1999。
- ・黒川建一/高杉自子（編）「保育講座 保育内容 表現」ミネルヴァ書房 1997。
- ・文部省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 1999。
- ・小林美実（他）「幼稚園教育大全」幼稚園じほう集録より 1991。
- ・田中敏明（編）「新しい保育 理論と実践」ミネルヴァ書房 1991。
- ・野村睦子/高村慶子（編）「5歳児のクラス運営」ひかりのくに 1992。
- ・古宇田亮順/阿部恵（共著）「こうぎパネルシアター」東洋文化出版 1987。
- ・阿部恵（他）「楽しいパネルシアターの世界」（楽しい実技集より）メイト 1998。
- ・平井信義/梅本妙子（他）「読み聞かせでのびる子ども」エイデル研究所 1993。
- ・森上史朗/高杉自子/柴崎正行（編）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 1999。
- ・黒川建一（編）「新保育講座 保育内容 表現」ミネルヴァ書房 2004。
- ・神長美津子（編）「改訂 幼稚園教育要領の展開」明治図書 1999。
- ・田中未来（編）「新幼稚園教育要領の内容と解説」明治図書 1989。
- ・山下明生（作）いわむらかずお（絵）「ねずみのかいすいよく」ひさかたチャイルド 1983。
- ・エリック＝カール（作）もりひさし（訳）「はらぺこあおむし」偕成者 1985。
- ・山崎陽子（作）末崎茂樹（絵）「ぼくのはなさいたけど・・・」金の星社 1990。